

令和4年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」自己点検・評価結果一覧

点検・評価項目	点検・評価手順	点検結果	評価	改善・向上に向けた計画
教育プログラムの実施状況及び改善・向上に向けた取り組みが、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度実施要項及び同細目で定められた水準を満たすこと。	教育プログラムの履修・修得状況、履修率向上に向けた計画の達成・進捗を確認する。	令和4年度にプログラム構成科目として「データサイエンス・リテラシー」を新設、全学共通科目のカリキュラムにおいて3群（キャリア科目）に配置し、全学生が履修しやすいプログラム構成とした。また、4学科のうち幼児教育保育学科を除く3学科でプログラムの履修を卒業要件とすることで、プログラムの履修率が向上した。	計画どおり履修率が向上している。	令和5年度入学生カリキュラムでは幼児教育保育学科でも必修化し、プログラム履修率100%を達成する。
	シラバスとモデルカリキュラムの対応を確認する。	令和4年度のプログラム構成科目のシラバスを確認した結果、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の要件であるモデルカリキュラムの5つの審査項目との対応関係が認められる。	シラバスとモデルカリキュラムの対応が認められる。	モデルカリキュラムとの対応がより明瞭になるようシラバスの記載を工夫する。
	学生アンケート等を通じた学生の理解を確認する。また、教育プログラムの学修成果や他の学生への推奨度について確認する。	令和4年度授業評価アンケート結果 学生の理解度を問う質問に対する4段階評価 ・「データサイエンス・リテラシー」2.73 ・「情報処理基礎Ⅱ（生活）」3.44 ・「コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ」3.21	「データサイエンス・リテラシー」は比較的難解であったことが認められる。 「情報処理基礎Ⅱ（生活）」と「コンピュータリテラシー（データ処理Ⅱ）」については学生の高い理解度が認められる。	「データサイエンス・リテラシー」については教材の見直しを行う。（令和4年度に使用した他大学のオンライン教材の難易度が高かったため。） 授業評価アンケートに加え、多様な手段で学修成果や他の学生への推奨度を把握する。
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、産業界等外部からの評価を確認する。	令和3年度プログラムの修了者は4名で、全員が就職した。そのうち1名は高度専門職への就職であった。	令和3年度プログラム修了者が少数であったため、全体的な進路等の傾向はつかめない。	キャリア支援課において、プログラム修了者の就職先に対し、就職後の活躍状況や能力評価等についてアンケート調査を行う。